

(水産試験場)試験研究課題事後評価票 [委員会総合] その1

番号	H20年度-1	H20年度-2	H20年度-3	H20年度-4
課題名	川と海をつなぐ河口域環境改善事業	養殖ノリの赤ぐされ病予報技術開発	新素材を利用した漁場改善事業(藻場造成)	オニオコゼの放流効果調査
期間	H18, 19年度	H17~19年度	H17~19年度	H17~19年度
担当部課室	業務部環境班	業務部増殖班	業務部資源班	栽培漁業センター
	143	147	129	128
評価項目				
目標達成度	21	22	19	19
5:目標を大きく上回って達成した。		1		
4:目標を上回って達成した。	3	2	1	1
3:目標どおりに達成した。	3	3	5	5
2:目標を下回った。				
1:目標を達成できなかった。				
有効性	19	20	17	17
5:見込みを大きく上回る効果があった。				
4:見込みを上回る効果があった。	1	2		
3:見込みどおりの効果があった。	5	4	5	5
2:見込んだ効果を下回った。			1	1
1:効果が得られなかった。				
成果	23	21	21	21
5:当初目的以外に著しい成果が得られた。	1			
4:当初目的以外の成果が得られた。	3	3	3	3
3:当初目的以外の成果は特になかった。	2	3	3	3
2:見込んだ効果を下回った。				
1:効果が得られなかった。				
効率性	16	18	16	17
5:費用対効果の面で極めて優れていた。				
4:費用対効果の面で優れていた。	1	1		1
3:費用に見合った効果が得られた。	2	4	4	3
2:費用対効果の面で問題があった。	3	1	2	2
1:費用対効果の面で大きな問題があった。				
妥当性	20	19	18	18
5:計画より大幅に優れた手法等により実施された。				
4:計画より優れた手法等により実施された。	2	1		
3:概ね計画どおりに実施された。	4	5	6	6
2:計画どおりに実施できなかった。				
1:ほとんど計画どおりに実施できなかった。				
成果の活用・発展性	22	24	20	17
5:技術移転、実用化等の具体的見込みがあり、新たな展開も具体性がある。		2		
4:技術移転、実用化等について、今後の発展可能性が高い。	4	2	3	1
3:技術移転、実用化等の可能性がある。	2	2	2	3
2:技術移転、実用化等に向け今後の取組が必要			1	2
1:技術移転、実用化等の見込みが低い。				
総合評価	22	23	18	19
5:著しい成果が得られた。		1		
4:十分な成果が得られた。	4	3	1	1
3:一定の成果が得られた。	2	2	4	5
2:見込んだ成果を下回った。			1	
1:成果が得られなかった。				

(水産試験場)試験研究課題事後評価票 [委員会総合] その2

番号	H20年度-1	H20年度-2	H20年度-3	H20年度-4
課題名	川と海をつなぐ河口域環境改善事業	養殖ノリの赤ぐされ病予報技術開発	新素材を利用した漁場改善事業(藻場造成)	オニオコゼの放流効果調査
期間	H18, 19年度	H17~19年度	H17~19年度	H17~19年度
担当部課室	業務部環境班	業務部増殖班	業務部資源班	栽培漁業センター
	143	147	129	128
助言・指摘事項等	干潟改善対策の提案に止まらず関係機関とも協力し成果を活用した改善が望まれる。	機器による菌の検出と現場へ情報提供する一連のシステム作りなど実用化に向けて検討が期待される。	スラグ礁での藻場造成、付着動物はコンクリート礁と差がないことが検証されたが、周辺海水や生息魚類などへの影響は？	放流オコゼの追跡調査を継続し放流効果をさらに解明する必要がある。
	干潟底質悪化究明は評価。流れ場と溶存酸素の拡散・消費、泥の巻上り等が残る。底泥の酸化還元状態と流れの関係を解明し全国の干潟底質改善の手掛りを得る可能性。	人工漁礁の着生状態が確認。着生状態と水深、水温、流れの関係を定量的に明らかにし、場に応じた最適な着生条件を探ることが課題であろう。
	大変有用な研究である。更に正確・迅速な予報が出来るよう努力されたい。いいノリがたくさん採れる様になることを望む。	スラグの活用にも工夫が必要と思われる。珊瑚の着床に効果があると聞いている。	放流後のトレースの手法の見直しが必要か？
	河口域の水産資源の回復のため、干潟環境改善対策を関係機関に積極的に提案し、実現させる必要がある。	従来の日視調査と平行し、的確な本法の活用を期待する。	コンクリート礁と同価格であり、低価格化も必要だが、コンクリート礁との耐用年数や埋没などの比較が必要か。	技術移転や実用化に向け経済的な放流場所、サイズを解明し、事業化にむけ漁獲経済効果と種苗生産経費が同等になること、つまり漁業者が金を払っても種苗を購入し放流を実施することが必要。
	調査結果より高梁川河口域をいかに改善にしていくのが問題だと思う。	県水産資源でものり養殖の研究は特に重要。一層の研究開発により品質の高いのりを生産し岡山の特産物の一つになればと思う。	コンクリート礁とスラグ礁の二種類だけでなく他の種類でも研究しても良いのではないか。	放流調査の必要性は特に高い。今後も色々な魚を長期的に調査してもらいたい。
	潮止めと調節池の両構造物の影響を受ける。対策の必要性の説明に利用できる。調節池堆積物の量と質が問題である。	感染の経路・範囲から冬の海水配置(陸側が低温低塩分)と関係するようだ。菌・栄養塩ともに陸水起源であることが問題。沖の海水導流の可能性等？	コンクリート礁とスラグ礁の生物学的差異を分離していない。種組成等の図も素材の差が継続的に明示されるように配慮すべきである。	群れを形成しない魚種に対し有効な追跡調査が必要。例えば栽培センターの稚魚についてマーキング等による知見はないか？